

V. 運営

24. 定款委員会

委員長 奥山 宏臣

本年度は外科専門医制度規則（定款施行細則第8号）、および外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定、ならびに外科専門医制度の指導医に関する施行規定の変更の諮問を受けたので、それぞれの変更案を作成し、理事会で決議されたので、社員総会に上程する（38～82頁）。

25. 財務委員会

委員長 長谷川 潔

1. 令和7年度決算について

令和7年度財務諸表を作成し、独立監査人であるEY新日本有限責任監査法人と本学会監事の監査を経て理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、定時社員総会に上程する（資料別添）。

なお、特定資産の「デジタル化推進基金」と「日本外科学会雑誌オンラインジャーナル基金」の取崩を行った。

2. 令和8年度予算について

令和7年度予算について、委員会で審議し、理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、令和6年2月1日からその予算に沿って業務を執行している（資料別添）。

なお、収支差額は赤字となるが、会員サービスの向上や積極的に外科医を増やすための方策によるものであるため、必要に応じて、引き続き内部留保の基金（特定資産）から充てる方針である。

3. 資産運用について

前年度の定時社員総会で資産運用を進めることについての了承を得たので、理事会からの紹介を受けて、大手証券会社を定年退職後に後進の指導にあたられている波多野紳一氏と、財務委員会アドバイザーとして業務委託契約を結んだ。

そして、「資産運用規程」（次頁）を作成した上で、アドバイザーの指導を受けて、適切な資産運用を開始した。

一般社団法人日本外科学会 資金運用規程

(目的)

第1条 この規程は、この法人（以下、本会と略記）の健全運営に資することを目的とする。

(対象とする資金)

第2条 この規程が適用される財産は、本会の定款若しくは理事会の決議により財産保有形態が指定されている財産を除く資金をいう。

(運用の種類)

第3条 この規程により運用される資金は、次の金融商品にて運用する。

- (1) 預金
- (2) 有価証券

(運用姿勢の基本原則)

第4条 資金運用の基本原則は、次のとおりとする。

- (1) 元本回収の確実性を最重要とする。
- (2) 事業経費等の支払準備資金及び想定外の資金需要に対応する流動性を確保する。
- (3) 資金運用における収益の極大化を図り、効率性を追求する。

(理事会の権限・責務)

第5条 資金運用に関する理事会の権限及び責務は、次のとおりとする。

- (1) 理事会は資金の運用に係る全権を有し、資金運用規程の施行及び変更をもって本会の健全運営に係る責務を負う。
- (2) 理事会は毎事業年度の資金運用方針を決議し、資金運用方針に定められた範囲内における業務執行権限を財務委員長に委譲するとともに、その責務を負う。
- (3) 理事会において財務委員長より運用状況の報告を受け、問題がなければこれを決議し、問題があれば財務委員長にその原因の究明を求める。

(財務委員長の権限・責務)

第6条 資金運用に関する財務委員長の権限及び責務は、次のとおりとする。

- (1) 財務委員長は業務執行に係る権限を有するとともに、運用状況を理事会に報告する責務を負う。
- (2) 毎事業年度の資金運用方針は、財務委員長が策定し、理事会の承認をもって実施される。財務委員長は、金融商品の取得時及び償還時若しくは償還前売却時に、確定事項を保有資産管理台帳に速やかに記載する。なお、資金運用方針及び保有資産管理台帳の保管期限は10年とする。
- (3) 財務委員長は業務執行権限を事務局長に委譲する権限を有するとともに、資金運用規程の遵守に係る監督責任を負う。
- (4) 資金運用方針の策定及び実施に係る情報取得を目的とし、財務委員長は外部に資金運用方針の策定補助を依頼することができる。

(資金の安全性確保)

第7条 第3条(1)に示す取得可能預金は、換金性を鑑み、次のとおりとする。

- (1) 普通預金
- (2) 定期預金(途中解約時の元本が確保されるもの)
- (3) 当座預金
(金融機関の健全性把握)

第8条 資金の与信先となる預金業務を行う金融機関に関して、事務局長は健全性把握のため、当該金融機関に対し、過去三決算期分の財務諸表、決算報告書等の情報を求める。また、参考指標として当該金融機関に関する格付情報や株価推移等の情報を収集する。

(資金の安全性確保)

第9条 第3条(2)に示す取得可能有価証券は、次のとおりとする。

- (1) 国債
- (2) 政府関係機関の発行する債券(政府保証債・財投機関債・非公募特殊債等)
- (3) 地方公共団体の発行する債券(地方債)
- (4) 民間企業の発行する債券(電力債・金融債・一般事業債)
- (5) 海外公共部門(国際機関・外国政府及び外国政府関係機関)の発行する債券
- (6) その他、理事会において健全性、収益性、流動性が高いと認められたもの
(格付基準)

第10条 第9条(4)及び(5)並びに(6)に示す有価証券に関しては、投資判断としての格付基準を遵守する。

- (1) 採用する格付業者
 - イ. 格付投資情報センター(R & I)
 - ロ. 日本格付研究所(J C R)
 - ハ. ムーディーズ・インベスターズ・サービス(M o o d y ' s)
 - ニ. スタンダード・アンド・プアーズ(S & P)

(2) 取得基準

第10条(1)の格付業者のいずれかがA格以上に格付しているもの

(3) 保有基準

第10条(1)の格付業者のいずれかがB B B格以上に格付しているもの

(集中投資の回避)

第11条 第9条(4)に示す債券については特定の発行体、第9条(5)及び(6)に示す外国証券については特定の国と地域及び発行体に過度に集中投資を行わないよう注意する。

(収益性資産の運用実務)

第12条 第9条(5)及び(6)に示す有価証券のうち、償還時に円建てで元本が確保される債券を除く金融商品(株式・外国株式・外貨建て外債・投資信託および転換社債型新株予約権付社債等、以下、収益性資産)について、財務委員長は全体のバランスを考慮

して収益性資産の配分比率(アセットアロケーション)を策定し、理事会の承認を得る。

(収益性資産の選択基準)

第13条 収益性資産の選択基準は、元本の変動性に留意して次のとおりとする。

(1) 時価情報等のリスク管理情報が随時、入手できる商品・運用手法とする。

(2) 投資信託の場合、その選択に当たっては、以下の条件を満たすものとする。

イ. 運用手法、運用スタイルが明確なものとする。

ロ. リスク管理の観点から、時価および運用状況レポートが定期的に提供されるものとする。

ハ. 過去の実績だけでなく、期待収益率および標準偏差等の指標によって運用対象選択の説明責任が果たせるものとする。

(発注業者の選定)

第14条 有価証券売買の発注業者に関して、保管先金融機関の固有財産との分別管理及び資金の決済業務等が確実に行われる業者とし、理事会にて定期的に判別を行う。

(満期保有の原則)

第15条 取得した債券に関しては、原則として満期償還日まで保有するものとする。但し、当該金融商品の入替売買を行うことで、資金運用の成果が高まるなど、運用管理に資する合理的な理由が存在する場合は、途中売却及び他商品への買い替えが認められる。

(信用リスク顕在化の対処)

第16条 保有する金融商品の格付けがBB格以下になるなど、元本毀損のリスクが生じるとみなされる事態が生じた場合、財務委員長は、直ちに理事会に諮り、措置を講ずるものとする。なお、緊急かつやむを得ない場合は、事前に理事長の承認を求め、直ちに事後稟議の手続きをとる。

(規程の変更)

第17条 この規程は、理事会の決議によって変更することができる。

(疑義の処理)

第18条 この規程の施行について疑義が生じたときは、理事会の決議によって決する。

(規程の廃止)

第19条 この規程は、理事会の決議によって廃止することができる。

附則

この規程は、令和7年11月17日から施行する。

26. 情報・広報委員会

委員長 田 尻 達 郎

1) 会員管理システムのリプレースの件

昨年度の定時社員総会で報告したとおり、新たな会員管理システムの開発委託業者がプロジェクトから撤退したため、後継の開発業者としてスリーエイ・システム社とセレマアシスト社の2社に委託したところ、当初の計画からほぼ1年後ろ倒しの令和8年2月に、無事に新システムを公開することができた。

併せて、プライバシーポリシーの改訂を行った。

なお、前委託業者には損害賠償請求を行っており、代理人同士で協議中である。

また、この会員管理システムのリプレースのプロジェクトは、一貫してEYストラテジー・アンド・コンサルティング社（EYSC社）のコンサルテーションを受けて実施してきたが、その費用の妥当性や、開発委託業者の撤退にあたっての責任問題などについては、外部有識者、監事、顧問弁護士、理事会にて検証を行ってもらった。

2) 学会公式 SNS の運用の件

令和6年2月1日から本学会の公式 SNS アカウント（X；旧 Twitter, Facebook）の運用を開始しており、週に2～3回の頻度で投稿している。学会公式 SNS アカウントの開設から2年を経過したが、開設後にいわゆる炎上のような事態はなく、フォロワー数も X で 2,100 名を超えるなど、着実に発信力を高めている。

また、昨年の第125回定期学術集会においては SNS-WG が主宰校の東北大学と連携して、会期前は約20件、会期中は約30件の積極的な SNS 投稿を行った。第126回定期学術集会においても、SNS-WG と主宰校が連携して、会期前より積極的に SNS 投稿を行っており、会期中にも投稿を行う予定としており、さらに今後も定期学術集会における投稿を戦略的に行うために、来年の第127回定期学術集会の主宰校からも1名の若手を推薦してもらって、SNS-WG メンバーを委嘱した。さらに、会期最終日には、ブランディング委員会と共催のセッションを設け、この1年間の報告を行う予定である。

3) 市民公開講座「オベスル」の件

令和7年9月28日（日）に、日本科学未来館（東京都江東区）を会場として、第2回目の小中高生向け体験型の市民公開講座「オベスル2025」を開催した。

SNS での周知も功を奏し、参加登録開始約24時間で1,500名分の参加登録枠が埋まり、早々に事前申込を打ち切ることとなるなど（実際の参加者は約1,200名）、前年度以上に盛会かつ成功裡に終了した。また、今回は今後の発展的開催に向けて設置した「オベスル2025実行委員会」の有志の学会員に、事前準備や当日運営のファシリテーターとし参画してもらった他、全国の医学部生に参加者指導のチューター役を担ってもらい試みを取り入れるなど、外科へのリクルートを目的に学会員の外科医と医学部生の交流を図るとともに、医学部生に現役外科医との交流の機会を提供した。今後は「オベスル2026実行委員会」を立ち上げ、令和8年度の市民公開講座の開催準備を行っていくところであり、令和8年度は10月12日（月・祝）に、みやこめっせ（京都市左京区）を会場として、同形式の「オベスル2026」を開催する予定である。

なお、「オベスル」、「日本外科学会」、「JAPAN SURGICAL SOCIETY」の商標登録を完了した。さらに、オベスルのファシリテーター業務については、一定の範囲で外科専門医更新の研修実績要件に算定されることになった。

27. NCD 連絡委員会

委員長 掛地 吉弘

1. NCD から「NCD 自施設データ利用申請」における外科領域のデータの利用申請について照会を受けた場合は、適宜「可否」を判断して、回答を行っている。
2. 例年どおり、NCD から 2024 年のデータ集計結果（Annual Report）が届いたので、ホームページで公開した。

1) 一般社団法人 National Clinical Database (NCD)

代表理事 池田 徳彦

National Clinical Database（以下 NCD）は、2010 年に設立され、2011 年 1 月の症例から登録を開始し、事業を開始して 15 年が経過した。2015 年度より、登録を行っている施設会員から会費の支払いをお願いしている。なお、2018 年度以降、未納期間が合計 2 年間（連続・不連続問わず）の施設は、「NCD 施設会員資格」を喪失し、外科専門医制度において基幹施設又は連携施設になれないほか、個人医師による専門医申請の際に当該施設で実施された全症例（2011 年～現在まで）のデータが利用することができない制度となっている。

外科学会関連で登録された症例数は、2026 年 3 月 1 日時点で下記のとおりです。

2011 年 1,172,267 件
2012 年 1,278,965 件
2013 年 1,567,166 件
2014 年 1,627,026 件
2015 年 1,718,478 件
2016 年 1,785,625 件
2017 年 1,829,567 件
2018 年 1,832,776 件
2019 年 1,863,316 件
2020 年 1,786,867 件
2021 年 1,818,558 件
2022 年 1,811,844 件
2023 年 1,880,571 件
2024 年 1,905,649 件
累計 23,878,675 件

また、過去に完了承認済みを 1 件以上登録した施設診療科数は、5371 施設・9588 診療科であり、有効ユーザー数は 51,795 人である。

なお、2025 年分のデータ登録を 2026 年 4 月 8 日で締め切る予定である。

2025 年度事業報告書、2026 年事業計画書及び進行中の公的研究費案件一覧、データ利用研究の一覧（各領域ごと）については、次頁以降を参照のこと。

一般社団法人 National Clinical Database
2025 年度事業報告書

National Clinical Database（以下 NCD）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果をもって市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2025 年度は、以下の事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- 医療技術等の進歩を踏まえ、より適切で更なる利活用が可能となるようなデータの収集を目指し、各領域のデータ入力仕様の改修要望を学会から受け付け、データ登録プラットフォームの構築を進めた。
- JCVSD-A、JCVSD-C、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、J-PCI 等の領域で、NCD データに基づく手術のリスク情報等を施設診療科が確認できるフィードバック関連機能の開発等を通し、各学会による医療の質の改善活動を継続的に支援した。
- DPC 集積システムの管理及び運用を継続し、レジストリデータと連携した DPC 情報の利活用を各学会と協働のもと推進した。
- NCD において、がん登録データベース（乳癌・肺癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌・腎盂尿管癌等の領域）の維持管理及び開発を進めた。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- ユーザーの症例データ入力負荷を軽減するため、院内情報システムと症例登録システムの連携を可能とするアップロードの仕組みを整備した。

（2）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- NCD データを用いて、参画する学会との協働のもと、日本における医療政策の立案と基盤となるエビデンスを創出する取り組みを推進した。
- 各領域の学術調査やアニュアルレポートにおいて、定型的な集計業務のシステム化を推進した。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に更新し、医療品質の評価等に寄与した。
- 各領域との共同研究開発において、研究実施体制の整備やデータ分析・評価のための支援を行った。
- 各領域の学術調査や研究の活性化を支援するため、データの適切かつ安全な利用を確保しつつ、学会推薦の解析者による研究支援の手続を一部見直し、契約関係書式の標準化等の整備を行った。

（3）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続して行った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援した。
- 各領域の学術集会などで、NCD のデータ収集状況や利活用の方法について周知支援した。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 症例登録に当たっての専門的な知見の習得や入力効率化を図るため、データマネージャー等のユーザー向けのセミナーを継続して開催した。また、臨床医を対象とした NCD を利用した研究のための教育プログラムについて実施した。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用等により、NCD の財政基盤の強化に貢献する施策を検討した。
- クラウド化したサーバーの維持管理コストの財源を確保するため、施設会費の改定や学会負担のシステム運営費の見直しを行い、持続的、安定的な経営を目指しているところ検討を重ねた。また、クラウド使用料を縮減するため、より効率化した運用を検討し実施した。
- 個人情報の適正な取扱い及び知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施した。
- 職員及び関係者の情報セキュリティに関する教育を継続して行った。
- 先進的な技術的基盤に基づき、業務の効率化と信頼性を向上させ、より高品質で持続可能なシステムの構築を目指し、検討を重ねた。

以上

一般社団法人 National Clinical Database
2026 年度事業計画書

National Clinical Database (以下 NCD) は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果をもって市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2026 年度は、以下の事業を実施する。

(1) 医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供 (定款 4 条 1 項 1 号)

- 医療技術等の進歩を踏まえ、より適切で更なる利活用が可能となるようなデータの収集を目指し、各領域のデータ入力仕様の改修要望を学会から受け付け、データ登録プラットフォームの構築を進める。
- JCVSD-A、JCVSD-C、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、J-PCI 等の領域で、NCD データに基づく手術のリスク情報等を施設診療科が確認できるフィードバック関連機能の開発等を通し、各学会による医療の質の改善活動を継続的に支援する。
- DPC 集積システムの管理及び運用を継続し、レジストリデータと連携した DPC 情報の利活用を各学会と協働のもと推進する。
- NCD において、がん登録データベース (乳癌・膵癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌・腎盂尿管癌等の領域) の維持管理及び開発を進める。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力率向上と状況把握を支援する。
- ユーザーの症例データ入力負荷を軽減するため、院内情報システムと症例登録システムの連携を可能とするアップロードの仕組みを整備する。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援 (定款 4 条 1 項 3 号)

- NCD データを用いて、参画する学会との協働のもと、日本における医療政策の立案のための検証と基盤となるエビデンスを創出する取り組みを推進する。
- 各領域の学術調査やアニュアルレポートにおいて、定型的な集計業務のシステム化を推進する。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援する。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に更新し、医療品質の評価等に寄与する。
- 各領域との共同研究開発において、研究実施体制の整備やデータ分析・評価のための支援を行う。
- 各領域の学術調査や研究の活性化を支援するため、データの適切かつ安全な利用を保持しつつ、学会推薦の解析者による研究支援制度の定着を図る。

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携 (定款 4 条 1 項 4 号)

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続して行う。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援する。
- 各領域の学術集会において、NCD のデータ収集状況や利活用の方法について周知する。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務（定款4条1項5号）

- 症例登録に当たっての専門的な知見の習得や入力効率化を図るため、データマネージャー等のユーザー向けのセミナーを継続して開催する。また、臨床医を対象とした NCD を利用した研究のための教育プログラムについて実施を検討する。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用等により、NCD の財政基盤の強化に貢献する施策を検討する。
- クラウド化したサーバーの維持管理コストの財源を確保するため、学会負担のシステム運営費の見直しを行い、持続的、安定的な経営を目指す。また、クラウド使用料を縮減するため、より効率化した運用を検討し実施していく。
- 個人情報の適正な取扱い及び知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施する。
- 職員及び関係者の情報セキュリティに関する教育を継続して行う。
- 先進的な技術的基盤に基づき、業務の効率化と信頼性を向上させ、より高品質で持続可能なシステムの構築を目指す。

以上

NCD公的研究費案件一覧(2025年4月以降)

(1)厚生労働省 肝炎対策予算

委託者	監修	内容	委託期間	領域
東京大学	小池和彦先生 (建石良介先生)	「肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者のQOL向上等に資する研究」 ①事務業務 ②アップロード機能と自施設DL機能の改修	・2025年4月1日～2026年3月31日	・肝癌/非代償性肝硬変、 分子標的薬

外科領域横断研究・日本外科学会主導研究

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2021	日本外科学会	池田 徳彦	The impact of COVID-19 on surgical procedures in Japan: an analysis of data of the National Clinical Database	Surgery Today.	16 November 2021 DOI: 10.1007/s00595-021-02406-2
2018	日本外科学会	瀬戸 泰之	No association between hospital volume and short-term outcomes of some common surgeries: a retrospective cohort study based on a Japanese nationwide database	Surgery Today.	11 February 2022 DOI: 10.1007/s00595-022-02467-x
2017	日本外科学会	下泉 芳秀	An Analysis of Surgical Procedures for Trauma from the National Clinical Database in Japan, 2011-2016	Indian Journal of Surgery	15 April 2023 DOI: 10.1007/s12262-023-03771-7
2018	日本胸部外科学会	木村 大輔	Postoperative cerebral infarction and arrhythmia after pulmonary lobectomy in Japan: a retrospective analysis of 77,060 cases in a national clinical database	Surgery Today.	05 May 2023 DOI: 10.1007/s00595-023-02691-z
2022	日本外科学会	日比 泰造	Impact of the coronavirus disease 2019 pandemic on 20 representative surgical procedures in Japan based on the National Clinical Database: Annual surveillance of 2021 by the Japan Surgical Society	Surgery Today.	22 December 2023 DOI: 10.1007/s00595-023-02786-7
2019	日本胸部外科学会	荻野 均	Current status of surgical treatment for acute aortic dissection in Japan: Nationwide database analysis	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	Epub 2023 Dec 5. https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2023.11.044
2018	日本胸部外科学会	荻野 均	Clinical Characteristics and Early Surgical Outcomes of Aorto-esophageal Fistula	The Annals of Thoracic Surgery	October 08, 2024 https://doi.org/10.1016/j.athoracsur.2024.09.035
Annual Report	日本外科学会	山本 健人	2023 National Clinical Database Annual Report by the Japan Surgical Society	Surgery Today.	17 January 2025 https://doi.org/10.1007/s00595-024-02980-1

学会名:日本消化器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先-発表先	掲載媒体詳細-発表日
2013	日本食道学会	北川 雄光	Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan	Annals of Surgical Oncology	First Online: 21 February 2017
2013	日本胃癌学会	円谷 彰	Preoperative risk factors for postoperative intra-abdominal infectious complication after gastrectomy for gastric cancer using a Japanese web-based nationwide database	Gastric Cancer	Published: 21 May 2020
2013	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 1 - Hepatectomy of more than one segment	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 17 March 2016
2013	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 2 - Pancreatoduodenectomy	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 19 March 2016
2013	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Higher incidence of pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy. Real-world evidence from a nationwide prospective cohort study.	Gastric Cancer	First Online: 08 September 2017
2013	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database	Surgical Endoscopy	First Online: 07 December 2017
2013	日本外科学会	瀬戸 泰之	Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes: a nationwide survey using a Japanese web-based database	Surgery Today	First Online: 12 August 2015
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems	Medicine (Baltimore)	Published online 2015 Dec 11.
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database	Esophagus	Published: 12 April 2019
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of adherence to board-certified surgeon systems and clinical practice guidelines on colon cancer surgical outcomes in Japan: A questionnaire survey of the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 07 April 2020
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and implementation of clinical practice guideline for pancreatic cancer on mortality of pancreaticoduodenectomy	Surgery Today	Published: 07 May 2020
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for liver cancer on post-hepatectomy risk-adjusted mortality rate in Japan: A questionnaire survey of departments registered with the National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 27 May 2021
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of a board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for gastric cancer on risk-adjusted surgical mortality after distal and total gastrectomy in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database	Surgery Today	Published: 18 November 2023
2013	日本消化器外科学会	寺野 弘之	Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after eight gastroenterological procedures.	Surgery Today	First Online: 29 September 2016
2014	日本消化器外科学会	太田 哲生	本邦の地域の医療需要を反映した専門医研修プログラムを作成する為の二次医療圏単位での医療の実態把握	日本消化器外科学会雑誌	J-STAGE公開日: 2016/11/22
2014	日本食道学会	岡部 寛	Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following oesophagectomy in Japan.	British Journal of Surgery	First published: 29 September 2016
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Annals of gastroenterological surgery	First published: 22 December 2017
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 09 February 2018
2014	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from the National Clinical Database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 29 September 2016
2014	日本膵臓学会	下瀬川 徹	Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NGD)	Pancreatology	Available online 16 July 2016.
2014	日本腹部救急医学会	平田 公一	A comparison of the surgical mortality due to colorectal perforation at different hospitals with data from 10,090 cases in the Japanese National Clinical Database	Medicine	Publication Date: January 2017
2014	日本胃癌学会	芳賀 克夫	Development and Validation of Grade-Based Prediction Models for Postoperative Morbidity in Gastric Cancer Resection using a Japanese Web-based Nationwide Registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 June 2019
2014	日本消化器外科学会	竹末 芳生	Risk calculator for predicting postoperative pneumonia after gastroenterological surgery based on a national Japanese database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 April 2019
2015	日本消化器外科学会	森 正樹	Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastrointestinal cancer surgeries.	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
2015	日本外科学会	土岐 祐一郎	Frequency and risk factors for venous thromboembolism after gastroenterological surgery based on the Japanese National Clinical Database (516,217 cases)	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 July 2019
2015	日本内視鏡外科学会	長谷川 博俊	Safety and Feasibility of Laparoscopic Surgery for Elderly Rectal Cancer Patients in Japan: a nationwide study	BJS Open	Published: 11 April 2021
2015	日本外科学会	長谷川 潔	Association between age and short-term outcome of gastroenterological surgeries in older patients: An analysis using the National Clinical Database in Japan.	Langenbeck's Archives of Surgery / major reviewで改訂中(2021/2/24).	Published: 11 August 2021
2015	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝 (遠藤 裕)	Mortality, morbidity, and failure to rescue in hepatopancreatoduodenectomy: An analysis of patients registered in the National Clinical Database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences (JHGPS)	published: 20 February 2021
2015	日本食道学会	松原 久裕	Essential risk factors for operative mortality in elderly esophageal cancer patients registered in the National Clinical Database of Japan	Esophagus	Published: 20 September 2022 volume

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体・掲載日
2016	日本胃癌学会	馬場 秀夫	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system.	Gastric Cancer	First Online: 09 October 2018
			Association of Surgeon and Hospital Volume with Postoperative Mortality after Total Gastrectomy for Gastric Cancer Data From 71,307 Japanese Patients Collected from a Nationwide Web-based Data Entry System (胃全摘)	Gastric Cancer	Published: 09 October 2020
2016	日本肝臓病学会	塚田 敬一	Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 18 June 2019
2016	日本脾臓学会	岡崎 和一	Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database	British Journal of Surgery	First published: 31 January 2020
2016	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer. A multicenter prospective cohort study	Gastric Cancer	First Online: 11 December 2018
2016	日本消化器外科学会	後藤 満一	"Real-time" risk models of postoperative morbidity and mortality for liver transplants	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 02 November 2018
2016	山口大学 (AMED石田班)	永野 浩昭	Impact of the hospital volume and setting on postoperative complications of surgery for gastroenterological cancers in a regional area of Western Japan	Surgery Today	Published: 10 August 2022
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database	Annals of Surgery	Publication Date: January 31, 2019
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database".	Annals of Surgery	Publication Date: December 2019
2017	日本肝臓病学会	田邊 稔	Safe dissemination of laparoscopic liver resection in 27,146 cases between 2011 and 2017 from the National Clinical Database of Japan	Annals of Surgery	2020 Mar 20(Epub ahead of print)
2017	日本肝臓病学会	中村 雅史	Definition of the Objective Threshold of Pancreatoduodenectomy With Nationwide Data Systems	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published:26 December 2019
2017	日本内視鏡外科学会	赤木 智徳	Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by JSES for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the NCD registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 31 August 2020
2017	日本消化器外科学会	今野 弘之	Profiles of institutional departments affect operative outcomes of eight gastroenterological procedures	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 February 2021
2017	日本消化器外科学会	丸橋 繁	Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study	Annals of Surgery	October 15, 2020 - Volume Publish Ahead of Print
2018	日本食道学会	本山 悟	Impact of certification status of the institute and surgeon on short-term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,752 patients from the National Clinical Database in Japan	Esophagus	First Online: 03 October 2019
2018	日本胃癌学会	井ノ口 幹人	Feasibility of laparoscopic gastrectomy for patients with poor physical status: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 22 July 2019
2018	日本肝臓病学会	山本 雅一	Surgical outcomes of laparoscopic versus open repeat liver resection for liver cancers: A report from a nationwide surgical database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 20 April 2022
2018	日本肝臓病学会	馬場 秀夫	Risk Factors for Bile Leakage: Latest Analysis of 10,102 Hepatectomies for Hepatocellular Carcinoma from the Japanese National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2020
2018	日本内視鏡外科学会	小濱 和貴	Prevalence and safety of robotic surgery for gastrointestinal malignant tumors in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 17 May 2022
2018	日本腹部救急医学会	星野 伸晃	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: a nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2018	日本腹部救急医学会	松岡 義	Antithrombotic drugs have a minimal effect on intraoperative blood loss during emergency surgery for generalized peritonitis: A nationwide retrospective cohort study in Japan	World Journal of Emergency Surgery	Published: 27 May 2021
2018	日本消化器外科学会	吉田 和弘	Surgical Experience Disparity Between Male and Female Surgeons in Japan	JAMA Surgery	published: July 27, 2022
2018	日本消化器外科学会	坂井 義治	A comparison of short-term surgical outcomes of male and female gastrointestinal surgeons in Japan: retrospective cohort study	BMJ Journals Premier Collection	Published: 28 September 2022
2018	日本消化器外科学会	瀬戸 泰之	Requirements for hospitals in Japan to have low operative mortality and failure-to-rescue rates	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 October 2023
2018	膵臓内視鏡外科研究会	中村 雅史	Comparison of Outcomes Between Laparoscopic and Open Pancreatoduodenectomy Without Radical Lymphadenectomy: Results of Coarsened Exact Matching Analysis Using National Database Systems	Asian J Endosc Surg	First published: 16 May 2021
2018	日本消化器外科学会	掛地 吉弘	Risk model for mortality associated with esophagectomy via a thoracic approach based on data from the Japanese National Clinical Database on malignant esophageal tumors.	Surgery Today	Published: 27 July 2022
2018	日本消化器外科学会	掛地 吉弘	Influence of facility size on perioperative outcomes in minimally invasive esophagectomy for 14,152 patients with esophageal cancer based on the Japanese National Clinical Database: A multicenter cohort study	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 01 May 2025
2018	日本消化器外科学会	掛地 吉弘	Updated risk prediction model for pancreaticoduodenectomy using data from the National Clinical Database in Japan.	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 11 November 2024
2019	日本食道学会	竹内 裕也	Impact of Reconstruction Route on Postoperative Morbidity After Esophagectomy: Analysis of Esophagectomies in the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 September 2021

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体誌名・発表日
2019	日本食道学会	渡邊 雅之	Association between preoperative HbA1c levels and complications after esophagectomy: Analysis of 15 801 esophagectomies from the National Clinical Database in Japan	Annals of Surgery	published: 2020 Nov 17
2019	日本肝臓病学会	平野 聡	Real-world short-term outcomes after distal pancreatectomy with en bloc celiac axis resection using the National clinical database of Japan	Surgery Today	Published: 19 November 2025
2019	日本肝臓病学会	花崎 和弘	Association of day of the week with mortality after elective right hemicolectomy for colon cancer: Case analysis from the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 15 January 2021
2019	日本肝臓病学会	花崎 和弘	Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2021
2019	日本肝臓病学会	花崎 和弘	Correlation between surgical mortality for perforated peritonitis and days of the week for operations: A retrospective study using the Japanese National Clinical Database	the American Journal of Surgery	Published: 2022 Feb 16.
2019	日本肝臓病学会	花崎 和弘	Days of the week and 90-day mortality after esophagectomy: analysis of 33,980 patients from the National Clinical Database	Langenbeck's Archives of Surgery	Published: 13 January 2024
2019	日本内視鏡外科学会	森 俊幸	Involvement of a skill-qualified surgeon favorably influences outcomes of laparoscopic cholecystectomy performed for acute cholecystitis	Surgical Endoscopy	Published: 01 February 2022
2019	日本内視鏡外科学会	森 俊幸	Skill-qualified surgeons positively affect short-term outcomes after laparoscopic gastrectomy for gastric cancer: A survey of the National Clinical Database of Japan	Surgical Endoscopy	Published: 02 March 2023
2019	日本内視鏡外科学会	山口 茂樹	Specialty-Certified Colorectal Surgeons Demonstrate Favorable Short-term Surgical Outcomes for Laparoscopic Low Anterior Resection: Assessment of a Japanese Nationwide Database.Diseases of the Colon & Rectum.	Diseases of the Colon & Rectum	Published: September 11, 2023
2019	日本内視鏡外科学会	松田 武	Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 01 August 2020
2019	日本腹部救急医学会	山田 岳史	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2019	日本消化器外科学会	西口 幸雄	Survey regarding gastrointestinal stoma construction and closure in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 November 2021
2019	日本消化器外科学会	竹内 裕也	Significance of the Glasgow Prognostic Score for Short-Term Surgical Outcomes: A Nationwide Survey Using a Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First Published: 21 March 2021
2020	日本食道学会	中島 康晃	Surgical outcomes of reconstruction using the gastric tube and free jejunum for cervical esophageal cancer: analysis using the National Clinical Database of Japan	Esophagus	Published: 10 March 2023 volume
2020	日本食道学会	北川 雄光	Describing the Landscape of Esophagectomy between Eastern and Western Oesophageal Societies: Comparative Studies from the Japanese National Clinical Database and Dutch Upper GI Cancer Audit	British Journal of Surgery	Published: 23 April 2025
2020	日本胃癌学会	徳永 正則	Deep Learning Model for Predicting Operative Mortality After Total Gastrectomy: Analysis of the Japanese National Clinical Database (NCDB)	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 July 2025
2020	日本胃癌学会	布部 創也	Impact of treatment guidelines and pivotal clinical trial results on a surgeon's decision regarding treatment for gastric cancer: a retrospective cohort study using the National Clinical Database	Surgery Today	Published: 24 February 2024
2020	日本肝臓病学会	江口 晋	Short-term outcomes after liver resection with vascular reconstruction: Results from a study with the National Clinical Database of Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	published: 28 April 2024
2020	静岡県立静岡がんセンター 肝臓外科	杉浦 祐一	Morbidity after left trisectionectomy for hepato-biliary malignancies: An analysis of the National Clinical Database of Japan	JHBPS	First published: 26 September 2023
2020	日本内視鏡外科学会	宇山 一郎	Safe implementation of robotic gastrectomy for gastric cancer under the requirements for universal health insurance coverage: a retrospective cohort study using a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First published: 12 October 2021
2020	日本内視鏡外科学会	錦織 達人	Short-term outcomes of robot-assisted versus conventional minimally invasive esophagectomy: A propensity score-matched study via a nationwide database	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 29 August 2024
2020	日本内視鏡外科学会	絹笠 祐介	Outcomes of robot-assisted versus conventional laparoscopic low anterior resection in patients with rectal cancer: propensity-matched analysis of the National Clinical Database in Japan	British Journal of Surgery	Published: 23 September 2021
2020	日本腹部救急医学会	星野 伸晃	Laparoscopic surgery for acute diffuse peritonitis due to gastrointestinal perforation: a nationwide epidemiologic study using the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 13 December 2021
2020	日本消化器外科学会	吉田 寛	Presurgical mild anemia is a risk factor for severe postoperative complications of rectal cancer surgery: A Japanese nationwide retrospective cohort study	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 10 January 2024
2020	日本消化器外科学会	丸橋 繁	Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery Using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study	Annals of surgery	Epub 2020 Oct 15.
2021	日本食道学会	渡邊 雅之	Influence of patient position in thoracoscopic esophagectomy on postoperative pneumonia: a comparative analysis from the National Clinical Database in Japan	Surgery Today	Published: 21 September 2022
2021	日本胃癌学会	掛地 吾弘	Postoperative adjuvant chemotherapy in patients with gastric cancer based on the Nationwide Gastric Cancer Registry in Japan	Global Health & Medicine.	Accepted January 14, 2025.
2021	日本肝臓病学会	齋浦 明夫	Volume- and quality-controlled certification system promotes centralization of complex hepato-pancreatic-biliary surgery	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 27 January 2023
2021	日本内視鏡外科学会	浜部 敬史	Regional and Patient Characteristic Disparities in the Outcomes of Minimally Invasive Surgery for Colorectal Cancer in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 03 April 2025
2021	日本内視鏡外科学会	上田 貴威	Risk factors for serious postoperative complications following gastrectomy in super-elderly patients 285-years-old with gastric cancer: A National Clinical Database study in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 10 July 2024

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体・掲載日
2021	日本内視鏡外科学会	赤木 智徳	Identification of risk factors for postoperative complications after right colectomy and low anterior resection in patients ≥85years old with colorectal cancer using the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 11 November 2024
2021	日本腹部救急医学会	山元 良	Simple severity scale for perforated peptic ulcer with generalized peritonitis: a derivation and internal validation study	International Journal of Surgery	Published: November 2024.
2021	日本消化器外科学会	板野 理	Impact of Child-Pugh score on surgical outcomes after distal gastrectomy and right hemicolectomy: a retrospective study from the Japanese National Clinical Database International Journal of Surgery	International Journal of Surgery	Published: January 2026.
2021	日本消化器外科学会	土岐 祐一郎	Status of perioperative venous thromboembolism (VTE) prophylaxis in gastrointestinal surgery based on national clinical database (NCD) data in Japan	Surgery Today	Published: 04 December 2024
2022	日本食道学会	北川 雄光	No difference in the incidence of postoperative pulmonary complications between abdominal laparoscopy and laparotomy for minimally invasive thoracoscopic esophagectomy: a retrospective cohort study using a nationwide Japanese database	Esophagus	Published: 01 December 2023
2022	日本胃癌学会	佐伯 浩司	Minimally Invasive versus Open Completion Total Gastrectomy for Remnant Gastric Cancer: A Nationwide Propensity Score-Matched Analysis	Gastric Cancer	Published: 22 September 2025
2022	日本消化器外科学会	福長 洋介	Machine learning prediction of anastomotic leak after low anterior resection: nationwide database analysis	Medicine	Published: August 22, 2025.
2023	日本内視鏡外科学会	松田 明久	The Influence of Surgeons' Gender on Surgical Outcomes in Laparoscopic Right Hemicolectomy: A Japanese Nationwide Retrospective Cohort Study	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 12 October 2025
2023	日本胸部外科学会	渡邊 雅之	Impact of Intraoperative Fluid Volume on Complications After Minimally Invasive Esophagectomy: Analysis of 8,782 Patients from the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 30 June 2025
—	日本消化器外科学会	宇田川 晴司 (大倉 遼)	Development of a model predicting the risk of eight major postoperative complications after esophagectomy based on 10,826 cases in the Japan National Clinical Database	Journal of Surgical Oncology	Accepted 27 November 2019
—	日本消化器外科学会	國崎 主税	Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities using a nationwide Japanese web-based database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer.	Gastric Cancer	First Online: 23 August 2016
—	日本消化器外科学会	菊池 寛利	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry.	Gastric Cancer	First Online: 11 March 2017
—	日本消化器外科学会	吉田 卓弘	Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
—	日本消化器外科学会	渡邊 聡明	Prediction model for complications after low anterior resection based on data from 33,411 Japanese patients included in the National Clinical Database.	Surgery	Published online: January 30, 2017
—	日本消化器外科学会	横尾 英樹	Models predicting the risks of six life-threatening morbidities and bile leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan.	Medicine (Baltimore)	Published online 2016 Dec 9
—	日本消化器外科学会	青木 修一	Risk factors of serious postoperative complications after pancreaticoduodenectomy and risk calculators for predicting postoperative complications: a nationwide study of 17,564 patients in Japan.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 14 February 2017
—	日本消化器外科学会	佐瀬 善一郎	Risk Models of Operative Morbidities in 16,930 Critically Ill Surgical Patients Based on a Japanese Nationwide Database.	Medicine (Baltimore)	Publication Date: July 2015
—	日本消化器外科学会	竹内 裕也	A risk model for esophagectomy using data of 5354 patients included in a Japanese nationwide web-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2014
—	日本消化器外科学会	栗田 信浩	Risk Model for Distal Gastrectomy When Treating Gastric Cancer on the Basis of Data From 33,917 Japanese Patients Collected Using a Nationwide Web-based Data Entry System.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2015
—	日本消化器外科学会	渡邊 雅之	Total gastrectomy risk model: data from 20,011 Japanese patients in a nationwide internet-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: December 2014
—	日本消化器外科学会	小林 宏寿	Risk model for right hemicolectomy based on 19,070 Japanese patients in the National Clinical Database.	Journal of Gastroenterology	First Online: 27 July 2013
—	日本消化器外科学会	松原 長秀	Mortality after common rectal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database.	Diseases of the Colon & Rectum	Publication Date: September 2014
—	日本消化器外科学会	見城 明	Risk stratification of 7,732 hepatectomy cases in 2011 from the National Clinical Database for Japan.	Journal of the American College of Surgeons	Published online: November 18, 2013
—	日本消化器外科学会	木村 理	A pancreaticoduodenectomy risk model derived from 8575 cases from a national single-race population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreaticoduodenectomy.	Annals of Surgery	Publication Date: April 2014
—	日本消化器外科学会	中越 亨	Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: an initial report on the surgical and 30-day mortality.	Surgery Today	First Online: 18 September 2014
—	日本消化器外科学会	後藤 満一	National Clinical Database feedback implementation for quality improvement of cancer treatment in Japan: from good to great through transparency.	Surgery Today	First Online: 24 March 2015
—	日本消化器外科学会	佐々木 章	Risk model for mortality associated with esophagectomy via a thoracic approach based on data from the Japanese National Clinical Database on malignant esophageal tumors	Surgery Today	Published: 27 July 2022
—	日本消化器外科学会	川合 一茂	Updating the Predictive Models for Mortality and Morbidity after Low Anterior Resection Based on the National Clinical Database	Digestive Surgery	Published: 2023 Jun 13
—	日本消化器外科学会	武富 紹徳	Risk model for morbidity and mortality following liver surgery based on a national Japanese database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2024
—	日本消化器外科学会	海野 倫明 (水間 正造)	Updated risk prediction model for pancreaticoduodenectomy using data from the National Clinical Database in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 11 November 2024

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体誌録・発表日
—	日本消化器外科学会	丸橋 繁 (佐藤 直哉)	Predicting surgical outcomes of acute diffuse peritonitis: Updated risk models based on real-world clinical data	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 02 April 2024
2017	日本消化器外科学会	金治 新悟	Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan	Surgery Today	First Online: 07 November 2018
2020	日本消化器外科学会	掛地 吉弘	Development of gastroenterological surgery over the last decade in Japan: analysis of the National Clinical Database	Surgery Today	Published: 17 July 2020
2020	日本消化器外科学会	長谷川 寛	Validation of data quality in a nationwide gastroenterological surgical database: The National Clinical Database site-visit and remote audits, 2016-2018	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 December 2020
2021	日本消化器外科学会	渡甲 丞	胃癌および食道癌手術の周術期管理に関する診療報酬算定の状況に関する施設アンケート調査とNational Clinical Databaseを紐づけたアウトカム解析	日本消化器外科学会誌	21-Sep-23
2021	日本消化器外科学会	丸橋 繁	Validation study of the ACS NSQIP surgical risk calculator for two procedures in Japan	the American Journal of Surgery	Nov-21
2021	日本消化器外科学会	花崎 和弘	Effects of the COVID-19 pandemic on gastroenterological surgeries in 2020: A study using the National Clinical Database of Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 18 November 2022
2021	日本内視鏡外科学会	猪股 雅史	The clinical impact of COVID-19 on endoscopic surgery in Japan: Analysis of data from the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 15 February 2023
2022	日本消化器外科学会	竹内 優志	The impact of COVID-19 for postoperative outcomes using a nationwide Japanese database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 04 May 2023
2022	日本消化器外科学会	竹内 優志	Analysis of the short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer during the COVID-19 pandemic using data from a nationwide Japanese database	Esophagus	Published: 22 June 2023
2022	日本消化器外科学会	清島 亮	Impact of COVID-19 pandemic on short-term outcomes after low anterior resection in patients with rectal cancer: Analysis of data from the Japanese National Clinical Database.	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 August 2023
2022	日本消化器外科学会	竹村 裕介	Original Article Impact of the COVID-19 pandemic on the number and short-term outcomes in hepatectomy for hepatocellular carcinoma: Results from the Japanese National Clinical Database, 2018-2021.	Hepatology Research	First published: 03 February 2024
2022	日本消化器外科学会	竹村 裕介	Impact of the COVID-19 pandemic on short-term outcomes after pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer: a retrospective study from the Japanese National Clinical Database, 2018-2021	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 23 March 2024
2022	日本内視鏡外科学会	猪股 雅史	Investigation of the impact of COVID-19 on postoperative outcomes using a nationwide Japanese database of patients undergoing laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection for gastric cancer and rectal cancer	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 28 January 2024
2022	日本腹部救急医学会	小川 真平	Effects of the COVID-19 pandemic on short-term postoperative outcomes of emergency surgery for gastroduodenal perforation: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 15 April 2024
2022	日本腹部救急医学会	小川 真平	Effects of the COVID-19 pandemic on short-term postoperative outcomes for colorectal perforation: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 23 November 2023
2023	日本消化器外科学会	竹内 優志	Association between the COVID-19 pandemic and short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer in facilities with and without board-certified esophageal surgeons: a nationwide retrospective cohort study	Esophagus	Published: 02 December 2024
2023	日本消化器外科学会	竹内 優志	Analysis of surgical volume and short-term outcomes for upper gastrointestinal cancer post-COVID-19: evidence from a nationwide Japanese database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 26 November 2024
2023	日本消化器外科学会	前田 広道	Impacts of COVID-19 pandemic on short-term outcomes of low anterior resection performed in hospitals with different surgical volumes	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 23 December 2024
2023	日本内視鏡外科学会	赤木 智徳	Effect on short-term outcomes of the COVID-19 pandemic following laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection for gastric and rectal cancer: A retrospective study using the Japanese National Clinical Database, 2018-2022	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 23 December 2024
2023	日本腹部救急医学会	小川 真平	Effects of an increase in emergency cases with difficulties in transport to hospital during the COVID-19 pandemic on postoperative short-term outcomes of colorectal perforation: A study based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 27 November 2024
2013	日本消化器外科学会 Annual Report	今野 弘之	National Clinical Database (消化器外科領域) Annual Report 2011-2012	日本消化器外科学会雑誌	2013/12/1
2014	日本消化器外科学会 Annual Report	若林 剛	National Clinical Database (消化器外科領域) Annual Report 2014	日本消化器外科学会雑誌	2015/12/1
2015	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	National Clinical Database (消化器外科領域) Annual Report 2015	日本消化器外科学会雑誌	2017/2/1
2016	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2016	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 23 November 2017
2017	日本消化器外科学会 Annual Report	長谷川 寛	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2017	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 May 2019
2018	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2018	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 March 2020
2019	日本消化器外科学会 Annual Report	丸橋 繁	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2019	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 09 April 2021
2020	日本消化器外科学会 Annual Report	梶原 由規	Annual report on National Clinical Database 2020 for gastroenterological surgery in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 09 February 2023
2021	日本消化器外科学会 Annual Report	瀬口 修司 (伊藤 直)	Annual report on National Clinical Database 2021 for gastroenterological surgery in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 17 October 2024

学会名：日本心臓血管外科手術データベース機構

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	掲載先：発表先	掲載媒体詳細：発表日
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	帆足 孝也	ダウン症候群に伴う先天性心疾患に対する外科治療成績	Circulation Journal The Society of Thoracic Surgeons (STS) 53rd Annual Meeting 2017	2017 Sep 12. doi: 10.1253/circ.0J-17-0483. Jan. 2017; Houston, TX
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	榎木 力	低左心機能患者におけるOPORC Or-pump CABGの比較検討	第45回日本心臓血管外科学会学術総会 American Association for Thoracic Surgery (AATS) 95th Annual Meeting 2015 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2015年2月(京都) Apr. 2015; Seattle, Washington 2016 Apr; 151(4): 1092-8.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 幸	大動脈弁置換術の全国集計	第43回日本血管外科学会学術総会 第58回 関西胸外科学会学術集会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2015年5月(神奈川) 2015年6月(岡山) 2019 Feb 15. pii: S0022-522X(19)30357-5. doi: 10.1016/j.jtcvs.2019.01.122
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	富入 剛	大動脈ステントグラフト挿入後の大動脈解離症例の検討	第45回日本血管外科学会学術総会 The Annals of Thoracic Surgery	2016年5月(広島) 2018 May; 105(5): 1392-1396. doi:
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 幸	非僧帽弁手術における心房細動に対する外科的肺静脈隔離術の有効性	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2017 May 23. doi: 10.1007/s11748-017-0785-x.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	胸部大動脈瘤手術における慢性閉塞性肺疾患の影響	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Apr 1; 51(4): 761-766.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	開心術後の大動脈狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績および手術リスク因子の検討	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Feb 1; 51(2): 347-353
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	榎木 力	冠動脈インターベンション既往が冠動脈バイパス手術の周術期成績に与える影響の検討	第68回日本胸外科学会定期学術集会 The Society of Thoracic Surgeons (STS) 52nd Annual Meeting The Annals of Thoracic Surgery	2015年10月(神戸) 2016; Phoenix, Arizona 2017 Jul; 104(1): 56-61
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	OFF-PUMP CABGと ON-PUMP CABGの術後早中期成績の比較	29th European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Oct. 2015; Amsterdam The Netherlands 2 November 2021
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	各慢性腎不全病期におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有効性の検討	第46回日本心臓血管外科学会学術総会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016年2月(名古屋) 2018 Apr 12. pii: S0022-522X(18)30934-6
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮田 裕章	医療機器の市販後における使用成績評価の質及び信頼性の確保のための要件等に関する研究(厚生労働科学研究委託業務)	32nd International Conference on Pharmacopidemiology and Therapeutic Risk Management Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia	Aug. 2016; Dublin, Ireland 2017 Oct 13. pii: S1053-0770(17)30802-9
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	心臓血管外科手術における出血量の予測因子について	第30回日本疾患学会学術集会 American Heart Association(AHA) 2017 J Thorac Cardiovasc Surg	2016年12月(東京) Nov. 2017; Anaheim California 2019 Sep 28.
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index and Albumin on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients		
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 慶夫	急性肺塞栓症に対する外科治療の日本の現状	Circulation Journal 第47回日本心臓血管外科学会学術総会	2018 Jun 27. doi: 10.1253/circ.0J-18-0371. 2019年2月(東京)
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	北川哲也	成人先天性心疾患の外科治療に関する研究	第22回日本成人先天性心疾患学会ジョイントシンポジウム 日本心臓血管外科学会	2020年1月(東京) 2020
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	杉本晃一	単心室における房室弁置換術の遠隔期成績の検討	31st European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	Oct. 2017; Vienna, Austria 2018 Dec 1; 27(6): 895-900
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	葉庭 了	心室中隔欠損症に対して広く行われている外科的閉鎖術に際して、低体重の術後経過への影響を検討する	American Heart Association(AHA) 2018	Nov. 10, 2018
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂口 元一	心筋梗塞後心室中隔穿孔の周術期成績の検討	第47回日本心臓血管外科学会学術総会 Circ J.	2017年2月(東京) 2019 Sep 11. doi: 10.1253/circ.0J-19-0589.
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	中野 清治	本邦における再開心術(人工弁置換術)	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 第72回日本胸外科学会定期学術集会	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 00 (2020) 1-9 2019年11月
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	阿部 知伸	急性A型大動脈解離の手術成績、患者背景の経時的な推移	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 42:223
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	徳田 康之	本邦における大動脈弁手術における患者背景の推移と手術成績の解析	第71回日本胸外科学会定期学術集会 Circulation Journal	2019年10月(東京) doi: 10.1253/circ.0J-19-0574 2020 Volume 84 Issue 2 Pages 277-282
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	櫻岡 緑	Surveillance of AF Surgery in Asia-pacific Region	9th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2016	Oct. 2016, Seoul

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	平松祐司	先天性心疾患術後の遅発性心タンポナーデの発症に関連する因子の検討	第51回心臓血管外科学会 J Thorac Cardiovasc Surg open	2021年2月(京都) Vol. 9 Number C 237-243
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	西 宏之	右小腸腸瘻瘻手術の有用性および安全性の検討 ~本邦におけるリスクファクターの解析~	第70回日本胸外科科学術総会演題登録 第71回日本胸外科科学術総会演題登録	2017年10月(岡山) 2018年10月(東京)
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	橋本 力	オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析	J Thorac Cardiovasc Surg American Association for Thoracic Surgery (AATS) Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 6& 6&-8& © 2020
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	低リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	J Thorac Cardiovasc Surg American Association for Thoracic Surgery (AATS) Circulation Journal	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032 2020 Volume 84 Issue 9 Pages 1599-1604
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jun 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	Circulation Journal American Association for Thoracic Surgery (AATS)	Circulation Journal. 2020 Aug 25. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032 99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	正井 崇史	本邦における透析大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術のsurgical AVRの成績	Circulation Journal	Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0042
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jun 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	J Thorac Cardiovasc Surg American Association for Thoracic Surgery (AATS)	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 Circulation Journal. 2020 Aug 25. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	平田康隆	Data provision and cooperation with World Database of Pediatric and Congenital Heart Surgery	Pediatr Cardiol	2018 Jan;39(1)
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	國原 孝	急性心筋梗塞における遠位動脈吻合におけるステントグラフトの意義 Impact of the Frozen Elephant Trunk Technique in Operation for Acute Type A Aortic Dissection: From the Japan Cardiovascular Surgery Database	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Aug 2025
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における透析大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術のsurgical AVRの成績	Circulation Journal	Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0042
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 雅夫	慢性腎機能障害が弓部大動脈手術成績に与える影響についての検討	34th EACTS Annual Meeting European Journal of Cardiothoracic Surgery	2020年10月 1-8 doi:10.1093/ejcts/ezab252
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	中井 真尚	胸部心臓血管外科領域におけるSSI発生の現状とその影響	第32回日本外科感染症学会総会学術集会 日本外科感染症学会雑誌	2019年11月(岐阜) 17(2): 54-59. 2021.
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients Part3: Thoracic aortic surgery	J Thorac Cardiovasc Surg	2020 Aug;160(2): 409-420.e14. doi: 10.1016/j.jtcvs.2019.07.048 Epub 2019 Sep 28.
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	井出 雄二郎	SPシャント手術が、機能的単心室患者の生命予後に与える危険因子の同定	34th EACTS Annual Meeting European Journal of Cardiothoracic Surgery	2020年10月 2021 Jul 30;60(2):377-383
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	廣瀬 圭一	Heterotaxyに対する外科治療成績	Circulation Journal	2024年10月
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	純田 寛	マルファン症候群の心臓血管外科手術に関する調査	第51回心臓血管外科学会	2021年2月(京都)
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	松浦 馨	人工透析患者に対する大動脈弁置換術の手術成績と長期予後に関する多施設研究	The Annals of Thoracic Surgery	Jan 2023
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	太田敬隆	総動脈管症治療戦略における staged repair の有用性	American Association for Thoracic Surgery (AATS) 100th Annual Meeting EJCTS	NY, USA 2020 2022年3月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮田裕章	肺炎因子の複合的な効果が急性大動脈症候群の手術症例の予後に及ぼす影響	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	DOI: https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2020.03.043
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	志水 秀行	東日本大震災前後における先天性心疾患手術数の動向についての調査	Journal of the American Heart Association	Journal of the American Heart Association 10.1161/JAHA.119.014787
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	日本における急性A型大動脈解離の治療	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2020 Nov 11
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	平田 康隆	全国および東京都における重症先天性心疾患の胎児診断率と予後に関する網羅的調査 (JOSQ調査分)	15th International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology Journal of Cardiology	2019年 21.08.013(Accepted 4 August 2021) https://doi.org/10.1016/j.jc.2021.08.013

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	北村 悠一郎	先天性心疾患に対する冠動脈移植術(coronary transfer)に伴う冠血管不全の頻度・原因・対策など生存率向上に資する調査研究とリアルタイム作成	European Journal of Cardiothoracic Surgery	2021年12月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	杉本 愛	完全型心内膜欠損症及びフローア四徴症合併症例に対する本邦の治療成績と周術期危険因子の検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2022 Mar 25
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	岩橋 徹	NOxを利用した大動脈造影の多領域に渡る実態調査研究 Clinical characteristics and surgical outcomes of aortoesophageal fistula in Japan	The Society of Thoracic Surgeons Ann Thorac Surg	2024年 10月 2025 Mar;19(3):538-545
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	松浦 啓	中等度以下虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁手術の現状とその治療成績	Gen Thorac Cardiovasc Surg Gen Thorac Cardiovasc Surg	2023年3月 2024年9月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	立石 渉	本邦の心臓大血管手術後SSIの発生頻度とリスク・短期予後への影響	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2022年12月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	冠動脈病変を有する大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術及び大動脈弁置換術+冠動脈バイパスの早期成績とリスク因子に関する検討	AATS	2021年4月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	綱田 寛	First Database Comparison Between the United States and Japan: Coronary Artery Bypass Grafting	Ann Thorac Surg	2020 Apr;109(4):1159-1164.
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	大石 泰久	弓部大動脈手術における術式による早期治療成績の比較	Annals of Vascular Surgery	2023年10月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	荻野 均	急性大動脈解離の外科治療に関する全国規模の診療実態調査	J Thorac Cardiovasc Surg	2023年11月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	根本慎太郎	18 Trisomyに合併した心疾患への外科治療介入 Current national landscape of cardiac surgery for children with trisomy 18 in Japan	The American Association of Thoracic Surgery	2025年8月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	北川 哲也	川崎病既往冠動脈バイパス術患者の背景、手術成績、予後に関する研究	JTO&Open	2024年9月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤吉俊敏	NO _x ・JOGSD データを使用した coronary malperfusion 合併急性大動脈解離の診療実態調査、治療選択と成績 Surgical Treatment for Acute Aortic Dissection with Coronary Malperfusion in Japan: National de Database Analysis	JTO&S Open	Volume 13 November 2025
2021	日本心臓血管外科手術データベース機構	渡辺剛	本邦における外科手術用ロボット (da Vinci surgical system) および小切開アプローチ (MIS) による僧帽弁形成術の手術ハイレートから見たアウトカムの検討	J Thorac Cardiovasc Surg	2024年5月
2021	日本心臓血管外科手術データベース機構	月原弘之	Audit-Based Quality Validation of the Japan Cardiovascular Surgery Database	Circulation Journal	2021 Oct 25;85(11):2140-2018.
2021	日本心臓血管外科手術データベース機構	北村 悠一郎	ロボット心臓手術(僧帽弁閉鎖不全に対する形成術)の成績	Kyobu Geka	2022 Jul;75(7)
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	National de Trends in Coronary Revascularization in Japan, 2017 to 2023: From Decline to Plateau	J Am Coll Cardiol	2025 Dec
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of thoracic aortic surgery in 4707 cases from a nationwide single-race population through a web-based data entry system: the first report of 30-day and 30-day operative outcome risk models for thoracic aortic surgery.	Circulation	Circulation on Sep 26; 138(14 Suppl):S153-9. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.107.756884.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	西 宏之	Minimally invasive cardiac surgeries in 2021: annual report by Japanese society of minimally invasive cardiac surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2024 July
	日本心臓血管外科手術データベース機構	下川智樹	Minimally invasive cardiac surgeries in 2022: annual report by Japanese society of minimally invasive cardiac surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2025 Dec
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	First report on 30-day and operative mortality in risk model of isolated coronary artery bypass grafting in Japan.	Ann Thorac Surg	Ann Thorac Surg. 2008 Dec;86(6):1866-72. doi: 10.1016/j.athoracsur.2008.08.001.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of valve surgery in Japan using the Japan Adult Cardiovascular Surgery Database.	J Heart Valve Dis	J Heart Valve Dis. 2010 Nov;19(6):684-91.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk models including high-risk cardiovascular procedures: clinical predictors of mortality and morbidity.	Eur J Cardiothorac Surg	Eur J Cardiothorac Surg. 2011 May;39(5):667-74. doi: 10.1016/j.ejcts.2010.06.050. Epub 2010 Nov 2.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Effect of benchmarking projects on outcomes of coronary artery bypass graft surgery: challenges and prospects regarding the quality improvement initiative.	J Thorac Cardiovasc Surg	J Thorac Cardiovasc Surg. 2012 Jun;143(6):1364-9. doi: 10.1016/j.jtcvs.2011.07.010
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Operative mortality and complication risk model for all major cardiovascular operations in Japan.	Ann Thorac Surg	2015 Jan;99(1):130-9. doi: 10.1016/j.athoracsur.2014.07.038. Epub 2014 Nov 6.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Quality improvement in cardiovascular surgery: results of a surgical quality improvement programme using a national de clinical database and database-driven site visits in Japan.	BMJ Qual Saf	2019
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Development of Bayesian Mortality Categories for Congenital Cardiac Surgery in Japan	The Annals of Thoracic Surgery	2020 Sep 16
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における心臓血管外科手術の現状: 2015年、2016年の日本心臓血管外科手術データベースの検討	日本心臓血管外科学会雑誌	Vol. 48, No. 1 January 2019 P1-24
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 1-congenital heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2019 Jul 20. doi: 10.1007/s11748-019-01160-0.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 2-isolated coronary artery bypass grafting surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2019 Jun 29. doi: 10.1007/s11748-019-01162-y.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Correction to: Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016, a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3-Valvular heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2019 Aug 5. doi: 10.1007/s11748-019-01178-4.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: analysis of data from Japan Cardiovascular Surgery Database. 4-Thoracic aortic surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2019 Jul 16. doi: 10.1007/s11748-019-01163-7.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2018年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOGSD)からの報告 1.先天性心疾患手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 151-154
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2018年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOGSD)からの報告 2.単独冠動脈バイパス手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 155-159
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2018年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOGSD)からの報告 3.心臓弁膜症手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 160-166
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2018年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOGSD)からの報告 4.胸部大動脈手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 169-172

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	OAG in NDI/JAOVSD	Nihon Rinsho	2016 Jun 20; 74 Suppl 4 Pt 1: 446-51. Japanese.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Long-term results of bilateral pulmonary artery banding versus primary Newwood procedure	Pediatr Cardiol	Pediatr Cardiol 2018 Jan; 39(1): 111-119
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Procedure- and Hospital-Level Variation of Deep Sternal Wound Infection From All-Japan Registry	Ann Thorac Surg.	2020 Feb; 109(2): 547-554. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.05.076. Epub 2019 Jul 20.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database 2017-2018. 1. Congenital heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021.Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Japan cardiovascular surgery database 2. Isolated coronary artery bypass surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021.Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3. Valvular heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021.Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 4. Thoracic aortic surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021.Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Audit-Based Quality Validation of the Japan Cardiovascular Surgery Database	Circulation Journal	2021 Volume 85 Issue 11 Pages 2014-2018 doi: 10.1253/circ.j.03-21-0444

学会名：日本心臓血管外科手術データベース機構、日本心臓血管インターベンション治療学会 共同研究

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構 日本心臓血管インターベンション治療学会	—	経腔内OAGおよびPCI症例数対比の検討	Journal of Clinical Medicine	—

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本小児外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2011-2012.	日本小児外科学会雑誌	52: 1350-1359. 2016
2018 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2013-2014	日本小児外科学会雑誌	54: 314-335. 2018
2019 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2015-2016	日本小児外科学会雑誌	55: 298-303. 2019
2020 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2017-2018	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772. 2021
2020 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 学術・先進医療検討委員会	わが国の新生児外科の現状 —2018年新生児外科全国集計—	日本小児外科学会雑誌	56: 1167-1182. 2020
2021 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2019	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772. 2021
2023 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2020	日本小児外科学会雑誌	59: 72-78. 2023
2023 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2021	日本小児外科学会雑誌	59: 912-918. 2024
2016	日本小児外科学会	藤代 準	Abdominal Drainage at Appendectomy for Complicated Appendicitis in Children: A Propensity-matched Comparative Study	Annals of Surgery	274: e599-e604. 2021.
2017	日本小児外科学会	照井 慶太	Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database-Pediatric of Japan	Journal of Pediatric Surgery	55: 2064-2070. 2020
2017	日本小児外科学会	藤代 準	Laparoscopic Versus Open Appendectomy for Acute Appendicitis in Children: a Nationwide Retrospective Study on Postoperative Outcomes	Journal of Gastrointestinal Surgery	25: 1036-1044. 2021
2019	日本小児外科学会	石丸 哲也	Risk factors for postoperative anastomotic leakage after repair of esophageal atresia: a retrospective nationwide database study	Surgery Today	Published 05 April 2023
2020	日本小児外科学会	照井 慶太	Influence of surgical volume on the mortality and morbidity of gastrointestinal perforation in children	Surgery Today	Published: 24 August 2023
2024	日本小児外科学会	伊勢 一哉	Impact of the novel coronavirus infection in pediatric surgery: an analysis of data from the National Clinical Database	Surgery Today	Published: 13 February 2024

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本呼吸器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2020	日本呼吸器外科学会	春木 朋広	Clino-pathological features and perioperative outcomes of robot-assisted thoracoscopic surgery for primary lung cancer: An analysis of initial outcomes based on the National Clinical Database	Surgery Today.	2025 Feb 7. DOI:10.1007/s00595-025-02992-5
2023	日本呼吸器外科学会	新谷 康	Effects of the COVID-19 pandemic on surgical treatment for thoracic malignant tumor cases in Japan: a national clinical database analysis	Surgery Today.	2024 07 December. DOI: 10.1007/s00595-024-02907-w
2020	日本呼吸器外科学会	早稲田 龍一	Preoperative risk-factors for secondary spontaneous pneumothorax surgery in Japan: a nationwide database study	Surgery Today.	2024 Aug 27. DOI: 10.1007/s00595-024-02926-7
(2022)	日本呼吸器外科学会	佐藤 幸夫	The consecutive impact of COVID-19 on thoracic surgical procedures in Japan: analysis of data from the National Clinical Database	Surgery Today.	2023 Nov 7. DOI: 10.1007/s00595-023-02763-0
2019	日本呼吸器外科学会	井上 匡美	Perioperative outcomes of minimally invasive surgery for large malignant thymic epithelial tumors and for total thymectomy.	Surgery Today.	2023 Mar 3 DOI: 10.1007/s00595-023-02667-z
(2021)	日本呼吸器外科学会	佐藤 幸夫	The impact of COVID-19 on thoracic surgical procedures in Japan: Analysis of data from the National Clinical Database	Lung Cancer	2022 Oct DOI: 10.1016/j.lungcan.2022.08.011
2020	日本呼吸器外科学会	一瀬 淳二	near-term perioperative outcomes of segmentectomy versus lobectomy for early-stage lung cancer: a propensity score-matched analysis.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2022 Dec 2 DOI: 10.1093/ejcts/ezac529
2019	日本呼吸器外科学会	新谷 康	A risk model for prolonged air leak after lobectomy using the National Clinical Database in Japan	Surgery Today.	2021 May 17 DOI: 10.1007/s00595-021-02300-x
2019	日本呼吸器外科学会	橋本 昌樹	Japanese Current Status of Curative-Intent Surgery for Malignant Pleural Mesothelioma	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Apr 27 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.04.042
2017	日本呼吸器外科学会	田中 雄悟	Preoperative cumulative smoking dose on lung cancer surgery in a Japanese nationwide database	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Feb 15 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.01.055
2017	日本呼吸器外科学会	宮崎 拓郎	Certified thoracic surgeons in Japan: a survey of risk-adjusted mortality in lung resection by a national database	Surgery Today.	2021 Jan 30 DOI: 10.1007/s00595-021-02227-3
2016	日本呼吸器外科学会	池田徳彦	Current status of surgery for clinical stage IA lung cancer in Japan: analysis of the national clinical database	Surgery Today.	Published: 05 July 2020 DOI: 10.1007/s00595-020-02063-x
-	日本呼吸器外科学会	遠藤俊輔	Risk assessments for bronchopleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2018 Oct 16. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y
-	日本呼吸器外科学会	遠藤俊輔	Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78,594 patients during 2014-2015.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Dec 1; 52(6): 1182-1189. doi: 10.1053/ejcts.oxf1190.
-	日本呼吸器外科学会	遠藤俊輔	Development of an annually updated Japanese national clinical database for chest surgery in 2014.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016 Oct; 64(10): 569-76. doi: 10.1007/s11748-016-0697-1.

マニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本乳癌学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2013	日本乳癌学会	新倉 直樹	Changes in tumor expression of HER2 and hormone receptors status after neoadjuvant chemotherapy in 21,755 patients from the Japanese breast cancer registry	Ann Oncol	2016 Mar; 27(3): 480-7. doi: 10.1093/annonc/mdv611
2013	日本乳癌学会	河合 賢朗	Body mass index and survival after diagnosis of invasive breast cancer: a study based on the Japanese National Clinical Database-Breast Cancer Registry	Cancer Med	2016 Jun; 5(6): 1328-40. doi: 10.1002/cam4.678.
2013	日本乳癌学会	片岡 明美	Young adult breast cancer patients have a poor prognosis independent of prognostic clinicopathological factors: a study from the Japanese Breast Cancer Registry	Breast Cancer Res Treat	2016 Nov; 160(1): 163-172. doi: 10.1007/s10549-016-3984-8
2014	日本乳癌学会	岩本 高行	Distinct breast cancer characteristics between screen- and self-detected breast cancers recorded in the Japanese Breast Cancer Registry	Breast Cancer Res Treat	2016 Apr; 156(3): 485-494. doi: 10.1007/s10549-016-3770-7
2015	日本乳癌学会	宮下 穰	Role of Postmastectomy Radiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy in Breast Cancer Patients: A Study from the Japanese Breast Cancer Registry	Ann Surg Oncol	2019 Aug; 26(8): 2475-2485. doi: 10.1245/s10434-019-07453-1
2015	日本乳癌学会	久保 真	A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+ breast cancer: a National Clinical Database study	Breast Cancer Res Treat	2019 Dec; 178(2): 647-656. doi: 10.1007/s10549-019-05413-7
2015	日本乳癌学会	北条 隆	Taxane-based combinations as adjuvant chemotherapy for node-positive ER-positive breast cancer based on 2004-2009 data from the Breast Cancer Registry of the Japanese Breast Cancer Society	Breast Cancer	2020 Jun; 27(1): 85-91. doi: 10.1007/s12282-019-00997-w
2017	日本乳癌学会	相良 安昭	Trends in adjuvant therapy after breast-conserving surgery for ductal carcinoma in situ of breast: a retrospective cohort study using the National Breast Cancer Registry of Japan	Breast Cancer	2022 Jan; 29(1): 1-8. doi: 10.1007/s12282-021-01307-z
2017	日本乳癌学会	寺田 満雄	Surgical treatment trends and identification of primary breast tumors after surgery in occult breast cancer: a study based on the Japanese National Clinical Database-Breast Cancer Registry	Breast Cancer	2022 Jul; 29(4): 698-708. doi: 10.1007/s12282-022-01348-y
2017	日本乳癌学会	岡村 卓穂	Breast cancer survival among Japanese individuals and US residents of Japanese and other origins: a comparative registry-based study	Breast Cancer Res Treat	2020 Nov; 184(2): 585-596. doi: 10.1007/s10549-020-05869-y
2017	日本乳癌学会	山田 顕光	Prognostic impact of postoperative radiotherapy in patients with breast cancer and with pT1-2 and 1-3 lymph node metastases: A retrospective cohort study based on the Japanese Breast Cancer Registry	Eur J Cancer	2022 Sep; 172:31-40 doi: 10.1016/j.ejca.2022.05.017
2018	日本乳癌学会	下村 昭彦	Clinicopathological features of male patients with breast cancer based on a nationwide registry database in Japan	Breast Cancer	2022 Nov; 29(6): 985-992. doi: 10.1007/s12282-022-01378-6
2018	日本乳癌学会	相原 智彦	Prognosis and effectiveness of chemotherapy for nodular breast carcinoma	Breast Cancer Res Treat	2022 Dec; 196(3): 635-645. doi: 10.1007/s10549-022-06749-3
2018	日本乳癌学会	安立 弥生	Analysis of prognosis in different subtypes of invasive lobular carcinoma using the Japanese National Cancer Database-Breast Cancer Registry	Breast Cancer Res Treat	2023 Oct; 201(3): 397-408. doi: 10.1007/s10549-023-07022-x.
2019	日本乳癌学会	扇田 真美	Survival of patients with squamous cell carcinoma of the breast compared with invasive ductal carcinoma by biological subtype: A matched analysis of the Japanese national clinical database-breast cancer registry	Breast	2025 Aug 27. doi: 10.1016/j.breast.2025.104567
2020	日本乳癌学会	笹田 伸介	Impact of immediate breast reconstruction on perioperative therapy: insights from a Japanese Nationwide Registry	Breast Cancer	2024 Jun 19. doi: 10.1007/s12282-024-01604-3
2021	日本乳癌学会	太治 智愛	Comparison of neoadjuvant and adjuvant chemotherapy for operable triple-negative breast cancer before the era of immune checkpoint inhibitors: A retrospective study from the Japanese National Clinical Database-Breast Cancer Registry	Breast	2025 Mar 25. doi: 10.1016/j.breast.2025.104460

学会名:日本血管外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2018年度	日本血管外科学会	保坂 晃弘	腹部大動脈領域の人工血管・ステントグラフト感染に対する術式と予後	Annals of Surgery	1 April 2023 DOI: 10.1097/SLA.00000000000005293
				European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	11 November 2021 DOI: 10.1016/j.ejvs.2023.06.034
				Journal of Vascular Surgery	26 January 2024 DOI: 10.1016/j.jvsv.2024.01.199
2019年度	日本血管外科学会	尾原 秀明	National Clinical Database (NCD)を用いた膝窩動脈捕捉症候群の術式と予後の検討	European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	21 May 2023 DOI: 10.1016/j.ejvs.2023.05.031
2020年度	日本血管外科学会	小澤 博嗣	囊状腹部大動脈瘤の手術適応における瘤径の最適な閾値に関する検討	Journal of the American Heart Association	23 May 2024 DOI: 10.1161/JAHA.123.032715

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください
URL: <https://www.jsvs.org/ja/>

学会名: 日本心臓血管インターベンション治療学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	山地香平	Relation of ST-Segment Elevation Myocardial Infarction to Daily Ambient Temperature and Air Pollutant Levels in a Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15;119(6):872-880.
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes of Women Versus Men with Non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention (from the Japanese Nationwide Registry).	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15;119(6):826-831.
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	坂倉建一	Incidence and Determinants of Complications in Rotational Atherectomy: Insights From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	Circulation: Cardiovascular Interventions	2016 Nov;9(11). pii: e004278.
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	久保俊介	In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome With Cardiogenic Shock (from a Japanese Nationwide Registry [J-PCI Registry])	Am J Cardiol	2019 May 15;123(10):1595-160
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Elderly Patients, Including 10 628 Nonagenarians: Insights From a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2019 Mar 5;8(5):e011183
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	秋田敬太郎	Impact of reduced-dose prasugrel vs. standard-dose clopidogrel on in-hospital outcomes of percutaneous coronary intervention in 62 737 patients with acute coronary syndromes: a nationwide registry study in Japan	Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother	2020 Jul 1;6(4):231-238
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	大野洋平	Incidence and In-Hospital Outcomes of Patients Presenting With Stent Thrombosis (from the Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry)	Am J Cardiol	2020 Mar 1;125(5):720-726
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Association of the Hemoglobin to Serum Creatinine Ratio with In-Hospital Adverse Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention among Non-Dialysis Patients: Insights from a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Clin Med	2020 Nov 10;9(11):3612
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	石原雅行	Impact of peripheral artery disease on short-term outcomes after percutaneous coronary intervention: A report from Japanese nationwide registry	PLoS One	2020 Oct 6;15(10):e0240095
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	相川忠夫	Procedural Volume and Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Unprotected Left Main Coronary Artery Disease - Report From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2020 May 5;9(9):e015404
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤野克明	Contemporary use and trends in percutaneous coronary intervention in Japan: an outline of the J-PCI registry	Cardiovasc Interv Ther	2020 Jul;35(3):218-226
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	藤井敏晴	Post-interventional adverse event risk by vascular access site among patients with acute coronary syndrome in Japan: observational analysis with a national registry J-PCI	Cardiovasc Interv Ther	2019 Oct;34(4):297-304
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	高原克佳	Diabetes mellitus and other cardiovascular risk factors in lower-extremity peripheral artery disease versus coronary artery disease: an analysis of 1,121,359 cases from the nationwide databases	Cardiovasc Diabetol	2019 Nov 15;18(11):155
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	香坂俊	Outcome of Percutaneous Coronary Intervention in Relation to the Institutional Volume of Coronary Artery Bypass Surgery	J Clin Med	2020 Apr 27;9(5):1267
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Risk stratification model for in-hospital death in patients undergoing percutaneous coronary intervention: a nationwide retrospective cohort study in Japan	BMJ Open	2019 May 22;9(5):e026683
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Comparative Trends in Percutaneous Coronary Intervention in Japan and the United States, 2013 to 2017	J Am Coll Cardiol	2020 Sep 15;76(11):1328-1340
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	高原克佳	Presentation Pattern of Lower Extremity Endovascular Intervention versus Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb	2020 Aug 1;27(8):761-768

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	山地香平	Population Density Analysis of Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment-Elevation Myocardial Infarction in Japan	J Am Heart Assoc	2020 Aug 4;9(15):e016952
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Impact of Institutional and Operator Volume on Short-Term Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention: A Report From the Japanese Nationwide Registry	JACC Cardiovasc Interv	2017 May 8;10(9):918-927
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	An overview of percutaneous coronary intervention in dialysis patients: Insights from a Japanese nationwide registry	Catheter Cardiovasc Interv	2019 Jul 1;94(1):E1-E8
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	辻村卓也	In-Hospital Outcomes after Endovascular Therapy for Acute Limb Ischemia: A Report from a Japanese Nationwide Registry [J-EVT Registry].	J Atheroscler Thromb	2020 Nov 20.
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	飯田修	Impact of Institutional Volume on Critical In-Hospital Complications Adjusted for Patient- and Limb-Related Characteristics: An Analysis of a Nationwide Japanese Registry of Endovascular Interventions for PAD.	J Endovasc Ther	2020 Oct;27(5):739-748
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	大場祐輔	In-hospital outcomes and usage of embolic protection devices in percutaneous coronary intervention for coronary artery bypass grafts: Insights from a Japanese nationwide registry.	Catheter Cardiovasc Interv	2021 Apr 16.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤山裕一	Variation in in-hospital mortality and its association with percutaneous coronary intervention-related bleeding complications: A report from nationwide registry in Japan	PLoS One	2021 Dec 13;16(12):e0261371.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	伊藤 剛	Effect of Procedural Volume on In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Chronic Kidney Disease (from the Japanese National Clinical Data [J-PCI Registry])	Am J Cardiol	2022 Feb 15;165:12-18.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	菅月 隼	Characteristics and in-hospital outcomes of patients undergoing balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: a time-trend analysis from the Japanese nationwide registry	Open Heart	2021 Sep;8(2):e001721.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	村重嘉信	Percutaneous coronary intervention in side branch coronary arteries: Insights from the Japanese nationwide registry	Int J Cardiol Heart Vasc	2021 Aug 18;36:100856.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤野克明	One-Year Outcome After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome - An Analysis of 20,042 Patients From a Japanese Nationwide Registry	Circ J	2021 Sep 24;85(10):1756-1767.
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	安藤博彦	Japanese Nationwide PCI (J-PCI) Registry Annual Report 2019: patient demographics and in-hospital outcomes	Cardiovasc Interv Ther	2022 Jan 12:1-5.
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	菅羽勘一	One-year Outcome after Percutaneous Coronary Intervention in Nonagenarians: Insights from the J-PCI OUTCOME Registry	Am Heart J	2022 Jan 8;S0002-8703:22:00004-7
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Use of Thrombus Aspiration for Patients With Acute Coronary Syndrome: Insights From the Nationwide J-PCI Registry	J Am Heart Assoc.	2022 Aug 16;11(16):e025728. doi: 10.1161/JAHA.122.025728
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	山地香平	Percutaneous coronary intervention during the COVID-19 pandemic in Japan: Insights from the nationwide registration data	Lancet Reg Health West Pac	2022 Mar 22;22:100434. doi: 10.1016/j.lanwpc.2022.100434.
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	村松 崇	Mechanical circulatory support devices for elective percutaneous coronary interventions: novel insights from the Japanese nationwide J-PCI registry	Eur Heart J Open	2022 Jun 27;2(4):oeac041. doi: 10.1093/ehjopen/oeac041. eCollection 2022 Jul.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	徳田真洋	Institutional Volume and Initial Results for Endovascular Treatment for Chronic Occlusive Lower-Extremity Artery Disease: A Report From the Japanese Nationwide Registry	J Endovasc Ther	2023 Mar 19;15266028231161242. doi: 10.1177/15266028231161242. Online ahead of print.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	戸部彰洋	Ischemic and Bleeding Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention With Chronic Kidney Disease or Dialysis (from a Japanese Nationwide Registry)	Am J Cardiol	2023 May 15;195:37-44. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.02.027. Epub 2023 Mar 31.

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先-発表先	掲載媒体詳細-発表日
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	齋藤佑一	Characteristics and outcomes of patients with no standard modifiable risk factors undergoing primary revascularization for acute myocardial infarction: Insights from the nationwide Japanese percutaneous coronary intervention registry	Am Heart J.	2023 Apr;258:69–76. doi: 10.1016/j.ahj.2023.01.009. Epub 2023 Jan 13.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	齋藤佑一	Volume–Outcome Relations of Percutaneous Coronary Intervention in Patients Presenting With Acute Myocardial Infarction (from the J-PCI Registry)	Am J Cardiol	2023 Apr 1:192:182–189. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.01.027. Epub 2023 Feb 21.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	安藤 智	Volume–outcome relationship in complication-related mortality after percutaneous coronary interventions: an analysis on the failure-to-rescue rate in the Japanese Nationwide Registry	Cardiovasc Interv Ther.	2023 Apr 25. doi: 10.1007/s12928-023-00935-w. Online ahead of print.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	田邊康宏	Intracardiac Echocardiography Guidance for Percutaneous Transcatheter Closure of Atrial Septal Defects — Nationwide Registry Data Analysis —	Circulation Journal	Circulation Journal/Volume 87 (2023) Issue 4/Article overview
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	One-year outcomes of patients undergoing percutaneous coronary intervention with the revived directional coronary atherectomy catheter: Insights from the J-PCI OUTCOME registry	Catheterization and Cardiovascular Interventions	09 November 2023 https://doi.org/10.1002/ccd.30895
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	金縄健治	Age-Stratified Prevalence and Relative Prognostic Significance of Traditional Atherosclerotic Risk Factors: A Report From the Nationwide Registry of Percutaneous Coronary Interventions in Japan	J Am Heart Assoc	2023 Nov 7;12(21):e030881. doi: 10.1161/JAHA.123.030881. Epub 2023 Oct 18.
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	西本裕二	Changing Trends in Mechanical Circulatory Support Use and Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Interventions for Acute Coronary Syndrome Complicated With Cardiogenic Shock: Insights From a Nationwide Registry in Japan	Journal of the American Heart Association	https://doi.org/10.1161/JAHA.123.031338
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	工野俊樹	Transradial intervention in dialysis patients undergoing percutaneous coronary intervention: a Japanese nationwide registry study	Eur Heart J Open	10.1093/ehjopen/oad116
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	堀江和紀	Comparing the Safety and Feasibility of Endovascular Therapy via Transradial and Transfemoral Approaches in Patients with Aortic/Ilia Occlusive Disease: A Propensity Score-Matched Analysis of the Nationwide Registry	J Endovasc Ther	DOI: 10.1177/15266082231187625
2023	日本心臓血管インターベンション治療学会	岩崎正道	Volume–outcome relationship in balloon aortic valvuloplasty: results of a consecutive, patient-level data analysis from a Japanese nationwide multicentre registry (J-SHD)	BMJ Open. 2023 Oct 17;13(10):e073597.	DOI: 10.1136/bmjopen-2023-073597
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	齋藤佑一	Benchmarking System Monitoring on Quality Improvement in Percutaneous Coronary Intervention: A Nationwide Registry in Japan	JACC: Asia	https://doi.org/10.1016/j.jaccasi.2023.12.003
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	星 智也	Impact of Sex Differences on Clinical Outcomes in Patients Following Primary Revascularization for Acute Myocardial Infarction — Insights From the Japanese Nationwide Registry —	Circulation Journal	https://www.jstage.jst.go.jp/article/circj/88/8/88_CJ-23-0266/article/cirj.88.8.88_CJ-23-0266
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	齋藤佑一	Door-to-Balloon Time and Mortality in STEMI With Cardiogenic Shock	JACC: Asia. Apr 23, 2024. Published DOI: 10.1016/j.jaccasi.2024.03.002	https://www.jacc.org/doi/10.1016/j.jaccasi.2024.03.002
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	中尾 匠	Impact of intravascular ultrasound-guided endovascular therapy on periprocedural outcomes in patients with lower-extremity artery disease	First published: 26 June 2024 https://doi.org/10.1002/ccd.31134	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/ccd.31134
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	安藤博彦	Cardiac arrest and post-discharge mortality in patients with myocardial infarction: A large-scale nationwide registry analysis	Resuscitation Plus	Volume 18, June 2024, 100647 https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2666520424000265
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	高橋佐枝子	Gender Disparities in Japanese Interventional Cardiology: Outcomes of Female Operators in Percutaneous Coronary Interventions	JACC: Asia. Aug 20, 2024. Published DOI: 10.1016/j.jaccasi.2024.07.005	https://www.jacc.org/doi/full/10.1016/j.jaccasi.2024.07.005
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	伊藤 剛	Effects of Transradial Access on In-Hospital Outcomes in Percutaneous Coronary Intervention for Coronary Artery Bypass Graft: Insights from the Japanese Nationwide Database	The American Journal of Cardiology	Volume 226, 1 September 2024, Pages 18–23 https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0002115924004582
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤野光明	Association of door-to-balloon time and one-year outcomes in hospital survivors of ST-elevation myocardial infarction	Journal of Cardiology	Volume 85, Issue 2, February 2025, Pages 98–99 https://doi.org/10.1016/j.jcard.2025.02.005
2024	日本心臓血管インターベンション治療学会	中橋康也	Cumulative impact of procedural and anatomical factors on in-hospital bleeding complications in endovascular therapy for lower-extremity artery disease: A nationwide registry in Japan	First published: 24 Feb 2024 10.1177/1358863X251320113. Online	https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/1358863X251320113

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先-発表先	掲載媒体詳細-発表日
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	原口拓也	Impact of Hospital Volume on Procedural Failure of Endovascular Treatment for Acute Limb Ischemia: the Japanese Nationwide Endovascular Therapy Registry (J-ENTレジストリ)の研究データをを用いた急性下肢虚血治療に対する手技成功と病院症例数の関連		
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	高橋智紀	Successful or Uncomplicated Use of Drug-Coated Balloon Versus Drug-Eluting Stent Strategies for De Novo Culprit Lesions in Acute Coronary Syndromes: Insights from a Nationwide Registry in Japan	Journal of the American Heart Association	https://www.ahajournals.org/doi/full/10.1161/JAHA.124.038071
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	福岡良磨	Dual impact of anemia and chronic kidney disease on postpercutaneous coronary intervention outcomes: insights from the Japanese nationwide registry	Open Heart	https://openheart.bmi.com/content/12/1/e003146
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	豊島 拓	Prolonged Procedure Time and Its Association with Peri-Procedural Complications in Endovascular Therapy for Symptomatic Lower Extremity Arterial Disease	Circulation Volume 150, Number Suppl.1	https://doi.org/10.1161/circ.150.suppl.1.4136902
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	鈴木隆宏	Left-Digit Bias in Serum Creatinine Levels and Contrast Administration: A Nationwide Cohort Study Using a Japanese Percutaneous Coronary Intervention Registry	Journal of the American Heart Association	Volume 14, Number 14 https://doi.org/10.1161/JAHA.125.041252
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	田中哲人	Current Trends in Device and Size Selection for Transcatheter Atrial Septal Defect Closure in Adults — Insights From a Japanese Nationwide Registry	Circulation Journal/Volume 89 (2025) Issue 7	https://doi.org/10.1253/circj.CJ-24-0844
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	大澤 匠	Time trends and clinical outcomes of transcatheter patent ductus arteriosus closure in adults: insights from a Japanese nationwide registry	Cardiovascular Intervention and Therapeutics	https://doi.org/10.1007/s12928-025-01174-z
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	新井 陸	Nationwide one-year outcomes in acute myocardial infarction-related cardiogenic shock with a focus on broad-anterior myocardial infarction: Insights from a Japanese registry	Journal of Cardiology-Original Article/Articles in Press/October 22, 2025	https://www.journal-of-cardiology.com/article/S0914-5087(25)00253-X/abstract
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	齋藤佑一	Geographic variations and trends in percutaneous intervention for patients with and without acute myocardial infarction: A Japanese nationwide registry study	PLOS One. October 31, 2025 1	https://doi.org/10.1371/journal.pone.0355428
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	畑 陽介	Non-Home Discharge After Endovascular Therapy for Chronic Limb-Threatening Ischemia	CJ-25-0698	https://doi.org/10.1253/circj.CJ-25-0698
2025	日本心臓血管インターベンション治療学会	伊藤 剛	Board-Certified Interventional Cardiologist Involvement and In-Hospital Outcomes — Insights From the Japanese Nationwide PCI Registry —	CJ-25-0641	https://doi.org/10.1253/circj.CJ-25-0641
2026	日本心臓血管インターベンション治療学会	橋田 修	Procedural Volume for Peripheral Artery Disease Before, During and After the COVID-19 Pandemic — A Report From the Nationwide Procedural Registry in Japan —	Circulation Reports 2026 Volume 8 Issue 2	Pages 350–352 https://doi.org/10.1253/circrep.CR-25-0226

年間の詳細は下記の学会HPよりご確認ください
URL: http://www.cvit.jp/registry/data_manager/

学会名：日本ステントグラフト実施基準管理委員会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2019年度	名古屋大学大学院 血管外科	坂野 比呂志	感染性胸部大動脈瘤に対するTEVARの治療成績	European Journal of Vascular and Endovascular Surgery (EJVES)	https://doi.org/10.1016/j.ejvs.2025.09.064

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください
URL: <http://stentgraft.jp/>

28. 総務委員会

委員長 猪 股 雅 史

1. 定期学術集会の運営マニュアルの見直しについて

コロナ禍を経て、学術集会がハイブリッド形式となったり、昨今の物価高騰で費用が厳しくなったりしていることを受けて、現状に即したマニュアル内容の一部見直しを行い、第126回定期学術集会から適用することとした。

また、同じく第126回定期学術集会から、準会員の参加費は5,000円とした。

2. 職員の育児・介護休業規定の見直しについて

令和7(2025)年10月の育児・介護休業法の改正に合わせて、顧問社会保険労務士の指導を受けて、職員の育児・介護休業規定を改正した。

29. 将来計画委員会

委員長 武 富 紹 信

本学会のブランド化を進めるための「ブランディング委員会」の他、学術集会の在り方を見直すための「学術集会在り方委員会（仮称）」も本委員会内に設置し、学術委員会による各サブスペシャルティ学会へのアンケート結果などを踏まえて、令和8(2026)年度から本格的に検討を開始することとした。

1) ブランディング委員会

委員長 吉 住 朋 晴

本委員会は令和6(2024)年11月に「日本外科学会のブランディング戦略全般の企画・実践」を目的として設置され、令和7(2025)年度より本格的に活動を開始し、月に1回の割合で会議を行っている。

まずは本会会員が学会に属していることを誇りとする「インナーブランディング」の向上を目指し、委員会内に「アンケート作成ワーキンググループ」を設置して全会員に対してアンケートを実施した。現在、アンケート結果を解析中である。

さらに、本会の存在価値を示す映像を作成する「プロモーションビデオ作成ワーキンググループ」、会員特典を示したリーフレット作成のための「リーフレット作成ワーキンググループ」、ホームページ上で本委員会の活動報告などを公開するための「INDEX ページ作成ワーキンググループ」の3つのワーキンググループを設置して、更に活発に活動中である。

30. 選挙管理・選挙制度検討委員会

委員長 奥 山 宏 臣

前年度の定時社員総会で変更された役員・代議員等選任規則に従い、上限400名の代議員改選選挙を2回に分けて実施した。まず、1回目の選挙は、350名（全体の87.5%）を上限として従来通りの選挙を実施した。公示をしたところ、25の選挙区の内、2選挙区で候補者数が定数を超え、5選挙区で候補者数が定数未満となり、そのほか18の選挙区では候補者数と定数が同数であった。候補者が定数を超えた選挙区では、インターネットを介した投票を実施し、1回目の選挙では、344名の当選者を決定した。その後、女性会員のみを被選挙人とし、50名（全体の12.5%）を上限とした2回目の選挙と1回目の選挙での欠員の生じた区の補欠選挙を実施した。公示をしたところ、女性選挙の25の選挙区の内2選挙区で、候補者数が定数を超え、1選挙区で候補者数が定数未満となり、その他の22の選挙区では候補者数と定数が同数であった。候補者数が定数を超えた選挙区では、インターネットを介した投票を実施し、2回目の選挙では、49名の女性当選者を決定した。また、併せて実施した補欠選挙は5選挙区のすべてで、候補者数が定数と同数であったため、投票を実施せずに6名全員を当選者とした。

1回目、2回目の各選挙の当選者は、令和8年2月1日付けで代議員に選任された（欠員1名；任期は令和10年1月31日まで）。